

はやちねさん
早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

面積	計： 5.31ha （三陸北部森林管理署）
設定目的 （管理方針書より抜粋）	岩手県宮古市の閉伊川支流御山川上流に位置するウダイカンバを主とする天然幼齡林。このウダイカンバの遺伝資源の保存を目的とする。
前回調査の評価・課題等	保護林エリアではニホンジカの生息が増加傾向にあり、 <u>林床植生の衰退が進行</u> している。早池峰地域ではニホンジカの個体数が増加傾向にあり、引き続き周辺地域での生息状況及び保護林内での森林への影響を注視しつつ、周辺地域においてニホンジカ被害に対応した保護・管理を実施する必要がある。
モニタリングの実施間隔	5年

早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

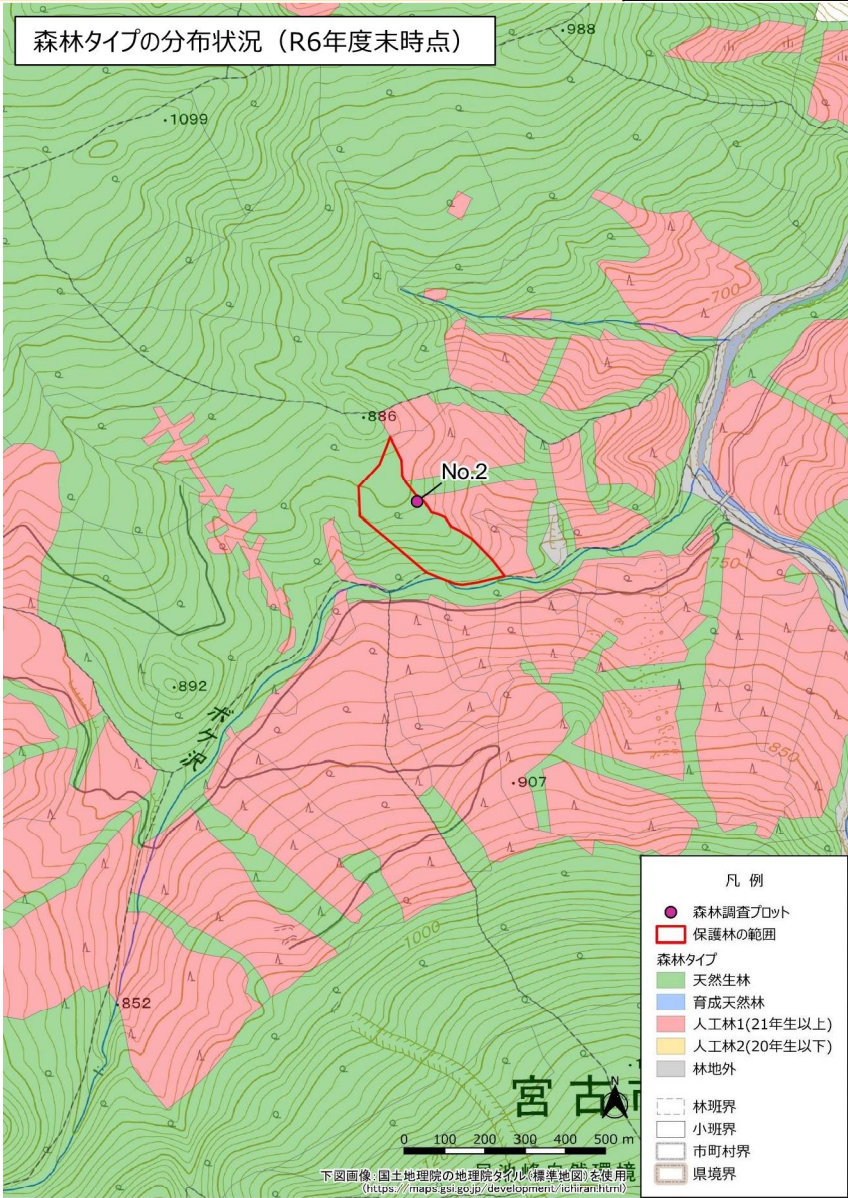
実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

デザイン

ウダイカンバを主とする天然幼齢林である。

本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。



早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

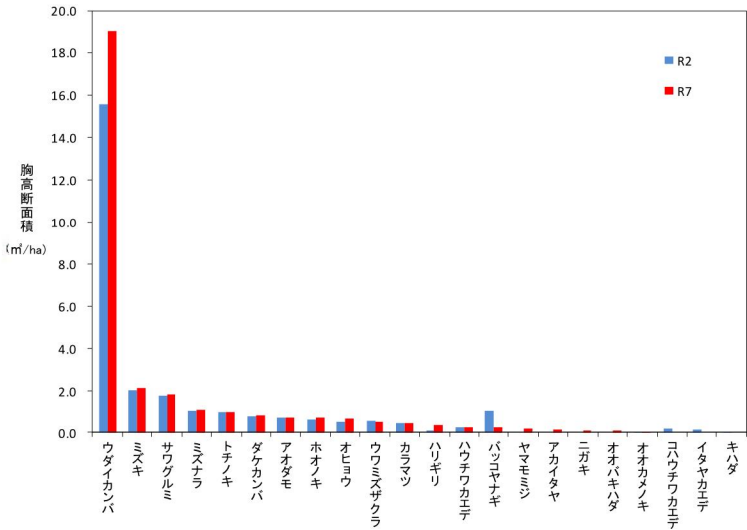
デザイン 森林概況調査、森林詳細調査

プロットNo.2

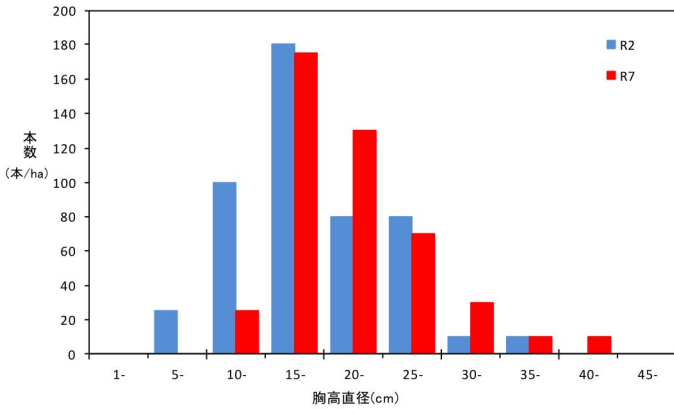
	R2(9月19日)	R7(9月30日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	R2	R7	R2	R7	R2	R7
ウダイカンバ	19.2	22.3	15.55	19.06	57.9%	62.6%
ミズキ	16.4	17.2	2.06	2.12	7.7%	7.0%
サウグルミ	7.3	8.7	1.80	1.82	6.7%	6.0%
ミズナラ	13.4	14.0	1.01	1.09	3.8%	3.6%
トチノキ	11.1	10.4	0.98	0.95	3.7%	3.1%
ダケカンバ	22.2	22.4	0.78	0.80	2.9%	2.6%
アオダモ	6.7	7.1	0.73	0.72	2.7%	2.4%
ホオノキ	7.9	8.3	0.63	0.70	2.3%	2.3%
オヒョウ	25.1	29.5	0.49	0.68	1.8%	2.2%
ウミズザクラ	10.2	13.3	0.58	0.52	2.2%	1.7%
カラマツ	23.9	23.6	0.45	0.44	1.7%	1.4%
ハリギリ	7.8	10.6	0.12	0.37	0.4%	1.2%
ハウチワカエデ	6.5	6.7	0.25	0.27	0.9%	0.9%
バスコヤナギ	14.5	18.5	1.00	0.27	3.7%	0.9%
ヤマモミジ	-	4.1	0.00	0.21	0.0%	0.7%
アカイタヤ	-	8.7	0.00	0.15	0.0%	0.5%
ニガキ	-	7.2	0.00	0.10	0.0%	0.3%
オオバキハダ	-	6.7	0.00	0.09	0.0%	0.3%
オオカメノキ	5.1	5.1	0.05	0.05	0.2%	0.2%
コハウチワカエデ	4.0	-	0.20	0.00	0.8%	0.0%
イタヤカエデ	8.0	-	0.13	0.00	0.5%	0.0%
キハダ	6.0	-	0.07	0.00	0.3%	0.0%
22種	-	-	26.88	30.42	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種及び保護対象種を示す。



1ha当たりの樹種別胸高断面積



ウダイカンバ（主要樹種かつ保護対象樹種）
1ha当たり胸高直径階別本数分布

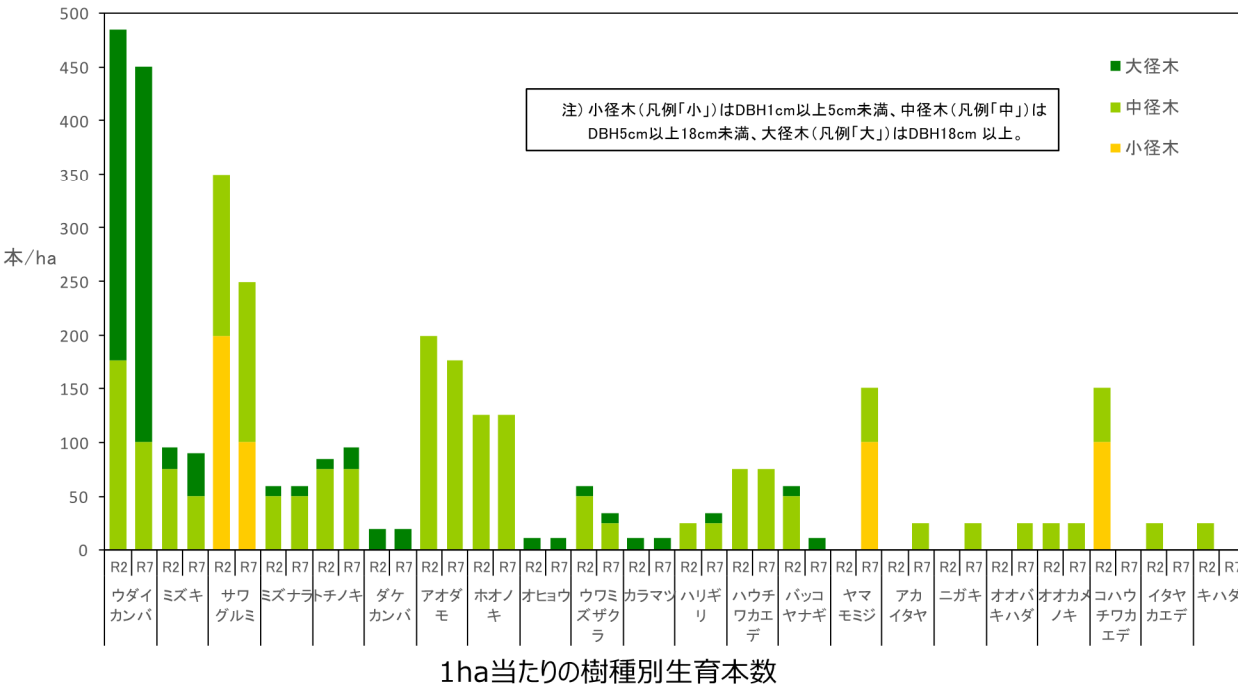
- ・ウダイカンバが優占し、ミズキやサウグルミ等が複数本生育する落葉広葉樹林である。
- ・写真を比較する限り、林相に大きな変化はなかった。
- ・今回調査では19種が確認され、令和2年度調査から1種増加した。
- ・ウダイカンバの胸高断面積が増加した。
- ・出現種には大きな変化はみられなかった。
- ・ウダイカンバの生育本数は全体として減少したものの、それぞれの直径階で進階がみられた。

デザイン

プロットNo.2

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	R2	R7	R2	R7	R2	R7
ウダイカンバ	19.2	22.3	15.55	19.06	57.9%	62.6%
ミズキ	16.4	17.2	2.06	2.12	7.7%	7.0%
サウグルミ	7.3	8.7	1.80	1.82	6.7%	6.0%
ミズナラ	13.4	14.0	1.01	1.09	3.8%	3.6%
トチノキ	11.1	10.4	0.98	0.95	3.7%	3.1%
ダケカンバ	22.2	22.4	0.78	0.80	2.9%	2.6%
アオダモ	6.7	7.1	0.73	0.72	2.7%	2.4%
ホオノキ	7.9	8.3	0.63	0.70	2.3%	2.3%
オヒョウ	25.1	29.5	0.49	0.68	1.8%	2.2%
ウウミズザクラ	10.2	13.3	0.58	0.52	2.2%	1.7%
カラマツ	23.9	23.6	0.45	0.44	1.7%	1.4%
ハリギリ	7.8	10.6	0.12	0.37	0.4%	1.2%
ハウチワカエデ	6.5	6.7	0.25	0.27	0.9%	0.9%
バッコヤナギ	14.5	18.5	1.00	0.27	3.7%	0.9%
ヤマモミジ	-	4.1	0.00	0.21	0.0%	0.7%
アカイタヤ	-	8.7	0.00	0.15	0.0%	0.5%
ニガキ	-	7.2	0.00	0.10	0.0%	0.3%
オオバキハダ	-	6.7	0.00	0.09	0.0%	0.3%
オオカメノキ	5.1	5.1	0.05	0.05	0.2%	0.2%
コハウチワカエデ	4.0	-	0.20	0.00	0.8%	0.0%
イタヤカエデ	8.0	-	0.13	0.00	0.5%	0.0%
キハダ	6.0	-	0.07	0.00	0.3%	0.0%
22種	-	-	26.88	30.42	100.0%	100.0%

※緑セルは保護対象樹種を示す。



- ・ウダイカンバの生育本数はわずかに減少がみられた。
- ・その他、高木層、亜高木層及び低木層では様々な広葉樹が多数確認されており、生育本数に増減がみられた。
- ・前回確認されたコハウチワカエデはヤマモミジ、イタヤカエデはアカイタヤ、キハダはオオバキハダに再同定されたため、それぞれ消失・新規加入となっている。

早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

デザイン

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)
--------	-------------------------------

森林詳細調査 下層植生調査結果

年度	N区		S区		重要種 ^注	
調査区	R2	R7	R2	R7		
低木層の植被率(%)	10	0	20	20	環境省RL	岩手県RL
低木層の優占種	チシマザサ	-	チシマザサ	オオカメノキ		
草本層の植被率(%)	0	10	10	10		
草本層の優占種	-	ハルニレ	ツリバナ	ウワミズザクラ		
出現種数	1	9	7	5	0	1
ムラサキシキブ		○		○		
ヤマブドウ		○		○		
オオバクロモジ			○	○		
チシマザサ	○		○			
ウワミズザクラ				○		
オオヤマザクラ				○		
クマイチゴ		○				
タマブキ		○				
ツルウメモドキ		○				
ハルニレ		○				
マタタビ		○				
ミズキ		○				
ミヤマスミレ		○				
アオダモ			○			
■			○			■
オオカメノキ			○			
ツリバナ			○			
ハリギリ			○			

注) 重要種の選定基準等は以下の通りである。
環境省RL:「環境省レッドリスト2025の公表について」(令和7年、環境省) 該当無し
岩手県RL:「岩手県レッドリスト(2024年度)」(令和6年、岩手県)

・前回調査時と比較してチシマザサの消失がみられたほか、ムラサキシキブやオオバクロモジといった低木類の実生などがまばらに生育していた。

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	記録なし
鳥獣害	下層植生へのニホンジカの食害や剥皮が確認された。
気象害	記録なし

デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている	希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		ウダイカンバの胸高断面積の増加が確認された。
		ウダイカンバの実生は少数確認されているが、下層植生では、チシマザサの消失が確認された。
		ニホンジカによる森林被害が確認された。

価値

保護対象樹種 ウダイカンバの生育状況

項目	結果
被害等	記録なし
ウダイカンバの生育状況	プロット内のウダイカンバの高木は健全な状態であった。
	プロット内でウダイカンバの亜高木、実生が確認された。
	保護林外及び踏査ルート上で生立木が多数確認された。



ウダイカンバの高木



林床の様子



ウダイカンバの実生

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	保護対象樹種ウダイカンバの被害は確認されなかった。 高木層でウダイカンバの良好な生育が確認された。

早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林	実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)
------------------------	--------	-------------------------------

利活用

- ・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかったが、聞き取り調査によって以下の情報を得た。
- ・国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場により、平成30年に林木ジーンバンク事業に基づくウダイカンバ外3種の種採取が行われた。

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用が1件確認された。

管理体制

- 【三陸北部森林管理署】
- ・林道点検等の際に巡視を行い、現況等を確認・把握している。
 - ・巡視の結果、異常があれば速やかに署へ報告・対応する体制を整えている。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	関係機関により保護林及び周辺地域において林道点検、林野巡視が行われている。

早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

まとめ・考察

現地調査結果総括・考察

調査年度		R2	R7
調査日		2020/10/21	2025/8/23
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	S、8°	
	局所地形	山腹平衝斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	ウダイカンバ	ウダイカンバ
	【高木層】樹被率	—	90%
	【高木層】樹高	15～25m	22～25m
	【高木層】DBH	10～30cm	20～40cm
	【亜高木層】主要構成樹種	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ
	【亜高木層】樹被率	—	60%
	【亜高木層】樹高	5～15m	8～16m
	【亜高木層】DBH	5～12cm	6～15cm
	【低木層】主要構成樹種	チシマザサ	オオカメノキ
	【低木層】樹被率	10%	5%
	【低木層】樹高	0.5～1.5m	1～4m
【低木層】DBH	—	2～7cm	
林分等の状況	【草本層】優占種	—	—
	【草本層】樹被率	—	1%
	【草本層】高さ	—	0.1m
	ウダイカンバが優占する成熟林。高木層には、ミズキやサワグルミ等の広葉樹が混生し、立木は健全であった。 林床植生はササが枯れ疎らになった。 林床植生は非常に疎らだが、ウダイカンバの実生は少数だが確認された。		
林況写真			

※前回調査のセルの「—」は、記録なしを示す。

- ・ウダイカンバの生立木はおおむね健全に生育しており、胸高断面積の増加がみられた。
- ・全体的な出現種、種数、胸高断面積合計には大きな変化はなかった。
- ・ウダイカンバの中径木は減少し、小径木は確認されなかった。
- ・低木層では前回調査とおおむね同様の種数だった。
- ・下層植生調査では、前々回（平成27年度）から前回調査時でチシマザサが激減したが、今回は消失した。
- ・下層植生は乏しい状態が続いており、ウダイカンバやムラサキシキブなどの木本植物の実生などが疎らに生育しているのみであった。ニホンジカの食痕が非常に多くみられたことから、草本類の生育は困難な状況である。

実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

全体まとめ・考察

- ・林相等に大きな変化はみられないものの、ニホンジカの採食圧による影響で下層植生が減少しており、保護対象樹種であるウダイカンバの稚樹や実生が少ない状況であったため、ウダイカンバの更新への影響が懸念される。
- ・先駆性樹種であるウダイカンバは攪乱が発生しない状況が続くと、同所での個体群を維持することが難しいと考えられる。

評価と今後の対応

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・5年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	<u>ニホンジカの食害による森林生態系や保護対象樹種への影響が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を検討する。</u>